

# ここに一滴の余裕を！

佐々木孝明<sup>\*1</sup>  
Sasaki Takaaki

## 1. はじめに

今年の年末年始の休みは録りためていたTV番組を朝からずっと見ていた(本稿を書いているのは年明けです)。かなりの数があったが相当数を無事視聴することができた。役立ったのは高速再生モードである。出不精の割にはものぐさでTV番組を録りためることが多い私には非常に有効な機能である。この機能はご存じのとおりかなり前から市販の録画装置へ搭載されており、以前からその機能を活用していた。装置によって再生速度は若干異なるが、一般的に途中のCMもスキップして高速再生モードで視聴すれば、2時間番組だと実質1時間ちょっとで視聴できる。きっと本稿をお読みの方もよく使われている機能であろう。

この高速再生モードによる視聴は、昨今、巷では流行っている言葉で言い表せば、タイパ(タイムパフォーマンス)ということになるだろうか。ちなみにこのタイパという言葉、私の記憶だと数年前から急に聞くようになってきた言葉である。いつ頃からどういった人たちが使っていたのか、本稿を書くにあたり少しインターネットで調べてみた。もともとはコンピューター機器やソフトウェアなどの処理速度を示す言葉として使われていたものがビジネス用語へ転用され、10年くらい前からビジネスの世界でよく使われるようになったとのこと。ここ数年は特に若者世代に受け、特に2022年4月に出版された『映画を早送りで見ている人たち』(稲田豊史/光文社新書)をきっかけに世間一般での認知度が飛躍的に向上し、とうとう『三省堂の辞書を編む人が選ぶ「今年の新語2022」』の大賞にまで選出されている。

正月休み中にこのタイパについて少し考えてみたのでしばしお付き合いを願う。

## 2. タイパについて思うこと

まず、タイパの定義であるが、タイパとはタイムパフォーマンス(=時間対効果)の略であり、一般的な理解では「掛けた時間に対する効果」といったところであろう。コスパ(費用対効果:お金主体)では表せない時間の有効活用度を表している。会社員であれば、常に人・物・金・時間等の投資効果について考えているだろうし、上司からも耳タコ状態で言われてきたはずである。私もいつの間にか、仕事を進める上で自分や周囲に対して費用効果は?投資効果は?と当たり前のように言うようになっていた。

昨今は情報が溢れかえる時代である。昔は新聞やTVくらいしか情報源はなかったが、現代ではインターネットからさまざまな情報が入ってくる。確かに今の時代、この情報量をひとつずつゆっくりと時間を掛けて内容を吟味することはできないし、そうする気すらおこらない。作り手の方々には少し失礼だが、「この際、TV番組ごときは高速で再生させ、途中のCMを飛ばして見ても罰は当たらぬ。」と考えるのは極めて自然な考えにみえる。

一方で時間的効率を向上させることによって起きるデメリット、あるいは失うものは何かないだろうかと考えていた時、ふと、私が小さい頃よく見ていたTV番組のウルトラシリーズを思い出した。M78星雲(なんと地球から300万光年離れている)からやって来たウルトラマンが、地球を侵略する宇宙怪獣から地球を守るという有名なTV番組

\*1: 取締役 検査事業部長

である。このウルトラマンの地球上での活動制限時間を示すカラータイマーは、原則3分で青色から赤色へ変化するという設定であった。3分を過ぎると赤色が点滅し、30秒後にはウルトラマンは動けなくなる。めったになかったが、一度カラータイマーが切れると、復活させるためにはウルトラ一家総出で復活させるしかなかった。タイパが問われている現在だと、カラータイマーの設定は2分とか1分になるのだろうか、そうすると怪獣を倒す効率上がる？ことから怪獣がもっとたくさん出てくるかもしれない。ウルトラ警備隊もきっと大忙しになろう。昨今の働き方改革的な見地からするとブラックな職場になるかもしれない。余計なお世話であるが、きっとウルトラ警備隊を辞める人が出てくるのではと他愛もないことを考えていた。また、このような世相を反映したウルトラシリーズというのも少し見てみたい気がする。

ちなみに少し話が変わるが、私が一番よく見ていたウルトラシリーズはウルトラセブンである。本稿を書いている際、ふとウルトラセブンのカラータイマーってどんな感じだったっけ？という疑問が湧いてきたので調べてみたら、驚いたことにウルトラセブンにはカラータイマーは付いておらず、というかそもそも設定すらなかった。活動時間の制限自体、当初はなかったとのこと。理由は、もともとウルトラマンと直接つながる物語でなかったことと、ウルトラの戦闘員ですらなくM78星雲から地球観測に来た恒点観測員340号だったためであるとウィキペディアに書かれていた。正直、かなり驚いた。なんという思い込みであろうか、あれだけTVで見っていたのにこれまでウルトラセブンにカラータイマーがなく、しかも

観測員だったとは。

話を戻そう。タイパは時間に対する効率を求めるものである。そのためか、特に短い時間軸での効率を求めることが多いように感じる。これを会社の経営に当てはめるとどうであろうか。一般的に欧米の会社では短期的利益の獲得が主目的となっている。そのためか、100年続く企業は日本より少ない(100年以上続いている会社は世界で約7万4千社。比率で見ると、1位の日本が50%、2位の米国が30%、3位は大きく比率を落とし7%のドイツとなる)。もちろん長く続けば良いというものでもないだろうが、あまり頻繁に倒産されるのも労働者/消費者としてちと困る。タイパ(特に短い時間軸での効率化を図る)を求めすぎると、長期的な視点・展望が抜け落ちやすくなってはいないだろうか？

### 3. おわりに

最後は若干強引ではあったが、短い時間軸でタイパを求めすぎることについて、多少自戒の念を込めて書かせていただいた。最近、タイパを意識しているわけではないが、なにやら自分の日常の会話や行動についても早さを求めることが増えてきた気がする。いやいや単に歳(とし)のせいだろうと言われるかもしれないが、もともとせっかちな性格では決してない。昨今は人生も長くなり、人生50年から100年時代と言われるようになった。50歳の節目は遥か前に過ぎたし、今後はぜひゆるりとした人生を送ろうと思う。ただし、会社では今しばらくコスパ/タイパについてこれまで以上に求めますのであしからずご了承ください。私は自分に甘く、他人には厳しいのである。



取締役  
検査事業部長  
佐々木 孝明

TEL. 045-791-3523  
FAX. 045-791-3547